

児童発達支援 自己評価結果(公表)

公表: 令和6年5月1日

事業所名 こどもハウスだんぼ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	86%	14%	子ども達の特性を考慮しながら定期的に備品等の配置を変更している	
	2	職員の配置数は適切である	71%	29%	利用児:職員=1:1を心がけている	送迎時の状況により職員の配置が厳しいときがある
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	57%	43%		構造上の段差など解消できない箇所があるが、福祉用具の活用などで補っている
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	86%	14%	利用児の過ごす室内空間は毎日、清掃消毒に心がけている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	86%	14%	月1回の会議で確認している	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		こうした評価で指摘を受けた項目等は会議で話し合うなど検討を行い、業務改善につなげているものの、必ずしも十分ではなく、今後さらに改善に努めたい
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	弊社ホームページで公開している	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		第三者評価については今後実施できるように努めていきたい
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	月1回テーマを決めて実施している	欠席者には資料配布で補っているが、研修内容の定着度アップに向けた取り組みを検討したい
適切な支援の	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	86%	14%		児童発達支援計画内容が不十分な場合もあり、保護者との話し合いを密に行い、ニーズを十分に反映した計画の作成を行いたい
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	86%	14%	概ね実施できている	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	86%	14%	概ね実施できている	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	86%	14%		職員により支援内容に差ができないよう、十分な打ち合わせ等が行えるよう努めていく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	月1回の会議で行っている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		なるべく固定化しないよう話し合いを行っているが、今後も改善に努めたい

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	同じような支援であっても子ども達の発達の状態や特性などに合わせた支援内容で作成している	偏った計画にならないよう取り組んでいきたい
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%		打ち合わせを行っているものの、利用児の医療面、安全面等の確認も多いため、効率的に確認業務が行えるよう取り組みたい
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	86%	14%		送迎等により、職員全員が参加しての打ち合わせが難しく、今後改善したい
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	支援経過表により行っている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	86%	14%	日頃の支援の中で実施している	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	86%	14%	主に管理者兼児童発達支援管理責任者が参画している	職員の配置等に工夫を行い、管理者等にこだわらず、なるべくその子どもの状況に詳しい者の参画に努めていきたい
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	86%	14%	必要に応じて連携している	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	86%	14%	必要に応じて連携している	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	86%	14%	協力医療機関の院長を嘱託医としており、連絡体制を整えている	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	71%	29%	必要に応じて連携している	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	86%	14%	必要に応じて連携している	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14%	86%	必要に応じて連携している	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	43%	57%		現在においてもコロナ感染がある状況で周囲の納得がえられず、今後の課題である
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0%	100%		今後の課題である
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳やSNSを利用して、お子様の状況について密に連絡している	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	43%	57%		今後の課題である
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	86%	14%	利用開始時に説明している		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	71%	29%	概ね実施できている	
	34	86%	14%	保護者と相談員の来所を受け入れたり、SNSを利用して、保護者様の悩み等をお伺いし、助言を行っている	
	35	29%	71%		以前はできていたが、コロナ禍以降開催できていないため、今後開催に向けて取り組んでいきたい
	36	100%	0%		保護者からの相談や申入れには、迅速な対応を心がけているが、対応体制の整備等についての保護者への周知は今後の課題である
	37	86%	14%	毎月、機関誌を発行し、デイサービスでの活動の様子を伝えている	
	38	86%	14%	概ね実施できている	
	39	86%	14%	概ね実施できている	
	40	57%	43%	ボランティアの受け入れを行っている	
非常時等の対応	41	86%	14%		職員間は閲覧等により周知を図っているものの、保護者に対しては不十分であり、今後ホームページに掲載するなど周知に努めたい
	42	100%	0%	年2回の避難訓練を実施している	
	43	100%	0%	必ず行っている	
	44	29%	71%	必ず行っている	現在食物アレルギーの利用児はない
	45	86%	14%	その日のうちに作成するルールであり、概ね実施できている	
	46	100%	0%	月1回の会議で行っている	
	47	86%	14%	概ね実施できている	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。